

# JR四国グループ

## 中期経営計画2025の達成に向けた取組み

【2024年度第2四半期 報告書】

2024年11月14日

四国旅客鉄道株式会社

# 目次

本報告書は2020年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

## 1. 収支の状況

- (1) 2024年度第2四半期 連結決算
- (2) 2024年度第2四半期 単体決算

## 2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2024年度第2四半期の検証結果（総括）
- (4) 2024年度第2四半期の実績等

# 1. 収支の状況

## 2024年度第2四半期（4月～9月）決算の概況

2024年度は、中期経営計画2025の4年目として目標達成に向けた正念場であり、次の飛躍につなげる年度と位置づけ、「鉄道事業における収益拡大施策の推進」「構造改革の加速」「非鉄道事業における最大限の収益拡大」を重点実施項目として各種施策に取り組みました。

収益面では、「瀬戸大橋線ご利用3億人達成」「ものがたり列車運行開始10周年」などのイベントを契機とした誘客促進に取り組むとともに、チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」バージョンアップや、8000系特急電車のリニューアル編成増備などのサービス向上を図ることで、鉄道運輸収入の確保に努めました。また非鉄道事業においても、分譲マンション販売の積み上げや、ホテル事業など人流回復を背景とした需要の積極的な取り込みに加え、「TAKAMATSU ORNE」の集客にもグループ一体で取り組むなど、収益の拡大に取り組みました。その結果、グループ全体での営業収益は前年から増収となりました。

営業外損益は、国からの「経営安定基金の下支え」支援による機構への貸付が進捗したことにより受取利息が増加したことなどから、経常利益、親会社株主純利益ともに増益となりました。

下期においても、「安全の確保」を事業運営の根幹に据えつつ、地域社会とも連携を図りながら各種施策にグループ一体となり取り組むことで、鉄道運輸収入の安定的な確保、非鉄道事業における収益の拡大を目指します。あわせて講じられた支援措置を最大限活用して生産性の向上施策も進めることで、長期経営ビジョン等の実現に向けて取り組んでまいります。

※資料中の「機構」とは独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構を指します。

# 1. 収支の状況

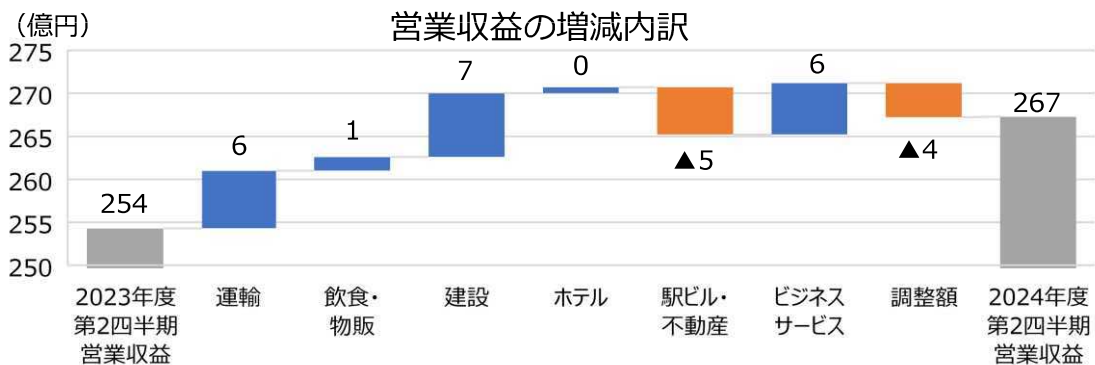
## (1) 2024年度第2四半期（4月～9月） 連結決算/前年度比較/グループ全体の状況

○連結損益計算書

(単位：億円)

第2四半期累計	2023年度	2024年度	増減	比率(%)
営業収益	254	267	12	105.1
営業費	302	318	15	105.2
営業利益	▲ 48	▲ 51	▲ 2	—
営業外損益	74	80	6	108.1
経常利益	26	29	3	111.8
特別損益	▲ 0	▲ 0	0	—
税金等調整前四半期純利益	25	28	3	113.4
法人税等	4	5	1	123.8
四半期純利益	21	23	2	111.3
非支配株主純利益	▲ 0	▲ 0	0	—
親会社株主純利益	21	23	2	111.2

【営業収益】4期連続の増収    【営業利益】4期ぶりの減益  
 【経常利益】4期連続の黒字、4期連続の増益  
 【親会社株主純利益】4期連続の黒字、2期連続の増益



・営業収益は、移動需要の回復を背景に「運輸」「飲食・物販」「ホテル」セグメントで増加しました。また、グループ外からの工事受注増加により「建設」セグメントも増加したほか、東京セフティを2023年度期末から連結子会社化したことなどから「ビジネスサービス」セグメントも増加しました。一方で「駅ビル・不動産」セグメントにおいて、分譲マンション販売の反動減などから減収となりましたが、グループ全体では前年度から12億円の増収となりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、増収に伴う売上原価の増加や「TAKAMATSU ORNE」など新規取得に係る減価償却費の増加などにより15億円増加となりました。

結果、営業利益は前年度より2億円悪化し、51億円の赤字となりました。

・営業外損益は、国からの支援である「経営安定基金の下支え」により受取利息が増加したことなどから6億円の増加となりました。結果、経常利益は前年度より3億円増加し、29億円となりました。

・以上より、法人税等を加味した親会社株主純利益は2億円増加し、23億円となりました。

# 1. 収支の状況

## (1) 2024年度第2四半期（4月～9月） 連結決算/前年度比較/セグメント別の状況

### ○セグメント情報

第2四半期累計	2023年度	2024年度	増減	(単位：億円)
				比率(%)
<b>営業収益</b>				
運輸	137	144	6	104.9
飲食・物販	29	30	1	105.5
建設	43	50	7	117.2
ホテル	39	39	0	102.0
駅ビル・不動産	34	28	▲ 5	83.7
ビジネスサービス	35	41	6	116.9
<b>営業利益</b>				
運輸	▲ 59	▲ 59	0	—
飲食・物販	0	0	0	118.9
建設	2	3	0	122.6
ホテル	5	5	0	103.5
駅ビル・不動産	3	▲ 0	▲ 4	—
ビジネスサービス	▲ 0	0	0	—

(注) セグメント別の営業収益は、外部顧客への営業収益のほか、他セグメントへの営業収益を含んでいるため、連結決算における営業収益の増減内訳とは一致しておりません。

- ・運輸  
移動需要の回復や運賃改定などにより、鉄道及びバスの運輸収入が増加したため、増収増益となりました。
- ・飲食・物販  
移動需要の回復及び、新規店舗開業などにより店舗販売収入が増加したため、増収増益となりました。
- ・建設  
松山駅付近高架化や多度津工場等の建築工事の増加に加え、グループ外からの電気工事受注等が増加したため、増収増益となりました。
- ・ホテル  
移動需要の回復により宿泊収入が増加したため、増収増益となりました。
- ・駅ビル・不動産  
「TAKAMATSU ORNE」開業に伴うテナント賃料収入が増加した一方で、分譲マンション販売の反動減や、減価償却費も増加したことなどから、減収減益となりました。
- ・ビジネスサービス  
多度津工場等の設備工事が増加したことに加え、東京セフティを2023年度期末より連結子会社化したことなどから増収増益となりました。

# 1. 収支の状況

## (2) 2024年度第2四半期（4月～9月） 単体決算/前年度比較/当社全体の状況

○単体損益計算書

(単位：億円)

第2四半期累計	2023年度	2024年度	増減	比率(%)
営業収益	148	147	▲ 0	99.6
鉄道運輸収入	108	114	5	105.1
その他収入	39	33	▲ 6	84.3
営業費	207	207	0	100.3
人件費	68	68	0	100.3
動力費	14	14	0	101.5
業務費	48	41	▲ 6	86.1
修繕費	30	35	4	113.3
諸税	8	8	0	102.1
減価償却費	37	39	2	106.8
営業利益	▲ 58	▲ 60	▲ 1	—
営業外損益	83	90	7	108.6
基金運用益	52	56	4	108.3
(運用利回り%)	(5.01)	(5.41)	(0.40)	(108.0)
特別債券利息	17	17	—	100.0
経常利益	24	30	6	124.6
特別損益	▲ 0	▲ 2	▲ 1	—
税引前四半期純利益	24	28	4	117.4
法人税等	0	3	2	743.6
四半期純利益	23	25	1	106.7

【営業収益】4期ぶりの減収（鉄道運輸収入は4期連続の増収） 【営業利益】4期ぶりの減益

【経常利益】4期連続の黒字、2期連続の増益 【四半期純利益】2期連続の黒字、2期連続の増益

・営業収益について、鉄道運輸収入は、移動需要の回復や運賃改定の効果などから5億円増加しました。また「TAKAMATSU ORNE」開業等に伴う不動産賃貸収入が増加した一方で、分譲マンション販売の反動減などにより、その他収入は6億円の減少となりました。

・営業費は、分譲マンションの売上原価の減少により業務費は減少した一方で、修繕費の増加や、「TAKAMATSU ORNE」取得に加え、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、57百万円の増加となりました。結果、営業利益は前年度より1億円悪化し、60億円の赤字となりました。

・営業外損益は、国からの支援である「経営安定基金の下支え」により受取利息が増加したことに加え、有価証券売却益や子会社からの受取配当金が増加したことなどにより7億円の増加となりました。結果、経常利益は前年度より6億円増加し、30億円となりました。

・以上より、四半期純利益は1億円増加の25億円の黒字となりました。

# 1. 収支の状況

## (2) 2024年度第2四半期（4月～9月） 単体決算/前年度比較/事業別の状況

### ○事業別

第2四半期累計	2023年度	2024年度	増減	(単位：億円)
				比率(%)
<b>鉄道事業</b>				
営業収益	123	130	6	105.5
営業利益	▲ 60	▲ 60	0	—
<b>関連事業</b>				
営業収益	24	17	▲ 7	70.0
営業利益	1	▲ 0	▲ 1	—

### ・鉄道事業

移動需要の回復や運賃改定の効果などによる鉄道運輸収入の増加に加え、旅行業収入も増加したことなどから、営業収益は6億円の増加となりました。

営業費は、修繕費の増加に加え、多度津工場近代化に伴う建替等による資産取得によって減価償却費が増加したことなどから、6億円増加しました。結果、営業利益は43百万円の改善となりました。

### ・関連事業

「TAKAMATSU ORNE」開業や賃貸用不動産取得に伴い不動産賃貸収入は増加したものの、分譲マンション販売の反動減などから、営業収益は7億円の減少となりました。

営業費は減価償却費などが増加した一方で、分譲マンションの売上原価が減少したことなどにより5億円の減少となりました。結果、営業利益は1億円の減少となりました。

## 2. 主要施策KPIの達成状況

### (1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2025の施策のうち、2024年度に取り組む主要なものについて、KPIとKGIを設定し、本検証の対象としました。

※KPI（Key Performance Indicator）とは、最終的な目標（KGI：Key Goal Indicator）を達成するための過程を計測する中間指標です。

### (2) 検証項目一覧

	KPI項目
鉄道運輸収入の安定的な確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 鉄道運輸収入の確保</li> <li>② チケットアプリの定着・拡大</li> <li>③ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大</li> <li>④ 利便性向上によるお客様満足の上昇</li> <li>⑤ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興</li> </ul>
非鉄道事業における 最大限の収益拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 連結売上高の確保</li> <li>⑦ (株) JR四国ホテルズの売上高</li> <li>⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高</li> <li>⑨ 四国キヨスク(株)の売上高</li> </ul>
生産性向上・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩ コスト削減の取組み</li> </ul>



## 2. 主要施策KPIの達成状況

### (3) 2024年度第2四半期（7月～9月）の検証結果（総括）

- 検証項目10項目のうち、5項目でKPIを達成、2項目で一部達成、3項目で不達成となりました。
- 「鉄道運輸収入の安定的な確保」と「非鉄道事業における最大限の収益拡大」については、ものがたり列車10周年を記念したイベント実施や、夏の多客期における本州方面特急列車の指定席拡大・臨時列車の運転等に取り組んだほか、TAKAMATSU ORNEにおいて新規店舗の開業を進めました。また、松山駅では高架化と同時に商業エリア「JR松山駅だんだん通り」を開業し、これらの取組みと合わせて収益の確保・拡大に努めました。一方で、台風接近や大雨、南海トラフ地震臨時情報等の影響があり、KPI達成は4項目に留まりました。
- 「生産性向上・その他」については、グループ一体でコスト削減に取り組み、KPIを達成しました。
- 引き続き、各種施策の取組みを積極的に行い、KGI達成を目指します。

## 2. (4) 2024年度第2四半期の実績等

### ① 鉄道運輸収入の確保

当社の収益において最大の割合を占める鉄道事業の収益確保に取り組みます。

2Q KPI		2Q 実績		達成率	
鉄道運輸収入	定期	11.9億円	定期	12.2億円	102.1%
	定期外	47.3億円	定期外	46.6億円	98.7%

#### ◆ 検証結果

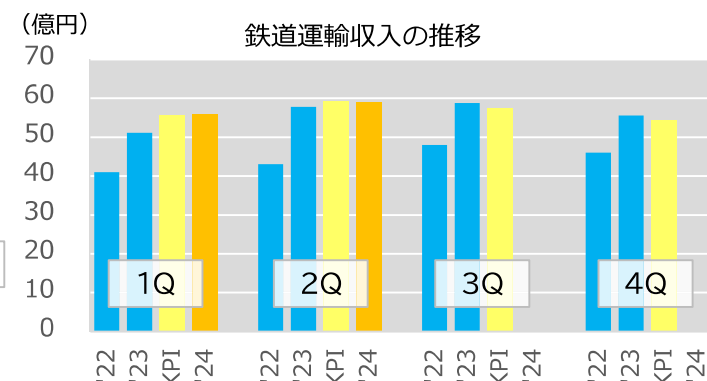
- ・ものがたり列車10周年記念イベントを展開し、四国内外に広くPRしました。
- ・夏の多客期において、着座により快適にご旅行いただけるよう本州方面特急の指定席を拡大したほか、花火大会などの大規模イベントに合わせた臨時列車を運行し、多くのご利用がありました。
- ・デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」を予讃線（高松～松山間）で導入し、島内流動を促進しました。
- ・これらの取組みを実施しましたが、台風10号接近に伴う運休や利用控えがあったことから、定期外についてはKPI達成とはなりませんでした。

訪日外国人向けパス（ALL SHIKOKU Rail Pass）の販売枚数は、4,019枚（対前年138%）となりました。

#### ◆ 今後の取組み

- ・ご好評いただいているエキタグの対応路線拡大や、「WESTERポイント」・「四国観光・旅アプリ『しこくるり』」と連携したキャンペーンの展開、冬季限定商品の発売など、各種営業施策を講じることで収入を着実に確保し、KGI達成を目指します。

2024年度KGI	
鉄道運輸収入	226億円



### ② チケットアプリの定着・拡大

2023年度から本格稼働したチケットアプリのご利用の定着・拡大に取り組みます。

2Q KPI		2Q 実績		達成率	
取扱収入割合	定期	13.0%	定期	15.9%	122.3%
	定期外	6.0%	定期外	5.0%	83.3%

2024年度KGI		
取扱収入割合	定期	14.5%
(通期)	定期外	6.5%

#### ◆ 検証結果

- ・ホームページリニューアルやチラシ配布を伴うアプリ体験会を実施するとともに、チケットアプリでの臨時駅を対象とした乗車券発売を可能とし、アプリの周知やご利用の定着・拡大に努めました。
- ・定期については、定期券の新規購入や年度初めに購入された定期券からの継続購入が堅調に推移し、KPIを達成しました。
- ・定期外については、おトクなきっぷのご利用の伸びが想定を下回ったことや、帰省やイベント等で鉄道利用者の多い8月に磁気券利用者が増加し相対的にチケットアプリ利用率が低下したことから、KPIは未達成となりました。
- ・アプリ会員数は引き続き増加しています。特に、高架化による松山駅の新駅舎開業直後には愛媛県の会員数が大きく伸びました。

#### ◆ 今後の取組み

- ・引き続き、定期券の買換え時期に合わせたPRなど、積極的な情報発信やキャンペーンを実施し、チケットアプリのご利用拡大を図ります。おトクなきっぷについては、チケットアプリでの購入メリットを分かりやすく訴求するよう取り組みます。



しこくスマート  
えきちゃん  
SHIKOKU SMART EKIICHAN



## 2. (4) 2024年度第2四半期の実績等

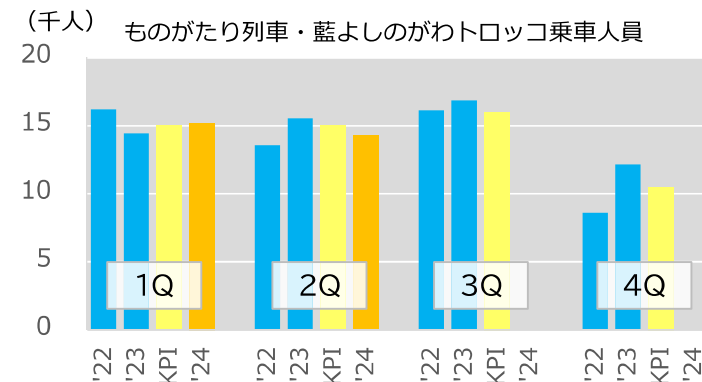
### ③ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大

魅力的な観光列車やトロッコ列車の運行により、四国への誘客促進や鉄道のご利用促進に取り組みます。

2Q KPI		2Q 実績	達成率
観光列車乗車人数	15,000人	14,264人	95.1%

- ◆ 検証結果
  - ・ものがたり列車10周年を記念した車両へのラッピングやヘッドマークの掲出などを実施し、列車の認知度向上に努めました。
  - ・イベント実施や記念グッズの販売、恒例となった特別運転の実施等により、1Qに引き続き多くのお客様にご利用いただきました。
  - ・しかしながら、台風10号や大雨の影響により「志国土佐時代の夜明けのものがたり」が4日間、「伊予灘ものがたり」・「四国まんなか千年ものがたり」が3日間、「藍よしのがわトロッコ」が2日間、それぞれ運休したことからKPIには届かない結果となりました。
- ◆ 今後の取組み
  - ・引き続き、ものがたり列車10周年を記念した車両ラッピングやヘッドマークの掲出、キャンペーンの実施により、列車のさらなる認知度向上に努めます。
  - ・「藍よしのがわトロッコ」では、プレゼントキャンペーンを行い集客に努めます。また、食事やお酒・バル飲食がセットとなった企画きっぷの発売を開始しており、チラシの配布など効果的な宣伝を実施し、利用者数拡大を目指します。

2024年度KGI
観光列車乗車人員 <b>56,500人</b>



### ④ 利便性向上によるお客様満足の上

お客様満足の向上を目指し、車両リニューアルのほか、各種サービス・設備の導入拡大に取り組みます。

2Q KPI	2Q 実績	達成状況
8000系車両リニューアル工事完了 (L編成1本) 1200型車両リニューアル工事完了 (1両)	計画どおり実施済み	○

- ◆ 検証結果
  - ・8000系 (特急電車) は計画どおりL編成1本のリニューアル工事を完了しました。(営業運転開始は8月2日)
  - ・1200型 (ローカル気動車) は計画どおり1両のリニューアル工事を完了しました。(営業運転開始は10月1日)
- ◆ 今後の取組み
  - ・快適にご利用いただけるよう、今年度は、8000系は残りS編成1本のリニューアル工事を、1200型は残り2両の工事を進めていきます。

2024年度KGI
車両リニューアル工事の完了、 各種サービス・設備の導入拡大



8000系 リニューアル車両

## 2. (4) 2024年度第2四半期の実績等

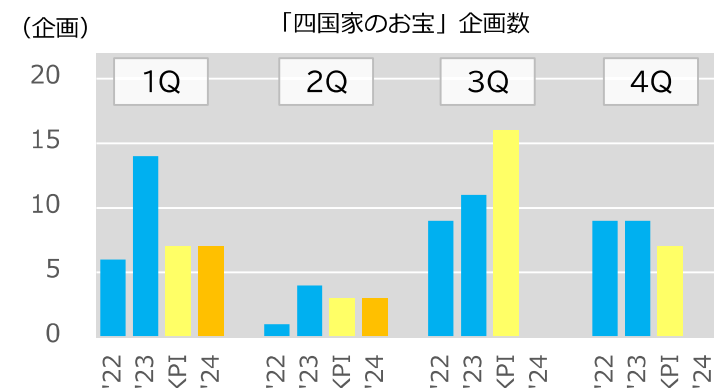
### ⑤ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興

四国の地域資源・文化資源を掘り起こし、地域と協働して観光素材へ磨き上げ旅行商品として販売することで、観光による地域活性化に取り組みます。

2Q KPI	2Q 実績	達成状況
3企画（参加人数 60人）	3企画（参加人数 68人）	○

- ◆検証結果
  - ・予定していた3コースを企画し、KPIの企画数および参加人数を達成することができました。
  - ・新規企画のツアーも好調で各日満席に近い集客となり、また一つ四国の魅力的なコンテンツを知っていただくことができました。
  - ・四国家サポーターズクラブの連携によるキッズ版も企画し、子供たちに学びの場を提供できました。
- ◆今後の取り組み
  - ・年間計画の企画を進めます。
  - ・持続可能な観光ビジネスモデルの構築を目指して、各コンテンツの高付加価値化（少人数・高単価）に取り組みます。
  - ・各コンテンツを更にブラッシュアップし、四国の魅力向上に向け自治体との連携を深度化します。

2024年度KGI
<b>33企画（参加人数600人）</b>



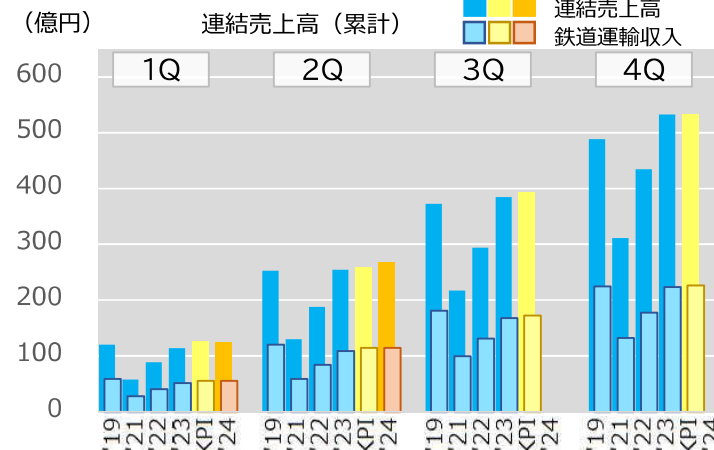
### ⑥ 連結売上高の確保

非鉄道事業のさらなる収益拡大に向け、グループ一体となった取り組みにより、連結売上高を確保します。

2Q KPI	2Q 実績	達成状況
累計 258億円（鉄道運輸収入 114億円）	267億円（鉄道運輸収入 114億円）	○

- ◆検証結果
  - ・ものがたり列車10周年を記念したイベント実施や、夏の多客期における本州方面特急列車の指定席拡大・臨時列車の運転等に取り組みました。台風接近や大雨の影響による列車の運休がありましたが、鉄道運輸収入は計画どおりとなりました。
  - ・TAKAMATSU ORNEにおいて新規店舗の開業を進めたほか、松山駅では高架化と同時に「JR松山駅だんだん通り」を開業し、収益の確保・拡大に努めました。
  - ・建設セグメントにおいてグループ外からの工事受注に努めました。
  - ・これらの取り組みにより連結売上高は計画額を上回り、KPIを達成しました。
- ◆今後の取り組み
  - ・グループ一体で収益拡大に向けた各種施策への取り組みを継続し、KGI達成を目指します。

2024年度KGI
<b>532億円（鉄道運輸収入226億円）</b>



## 2. (4) 2024年度第2四半期の実績等

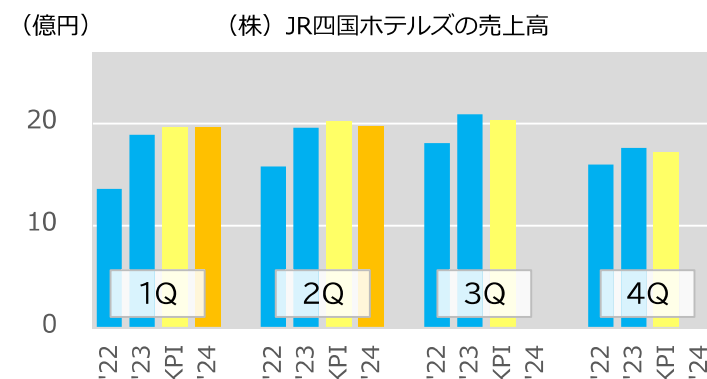
### ⑦ (株) JR四国ホテルズの売上高

お客様ニーズに対応した安全・安心で上質なサービスの提供に努めます。

2Q KPI	2Q 実績	達成率
20.2億円	19.7億円	97.2%

- ◆ 検証結果
  - ・ 訪日外国人の増加に加え、国内の個人・団体ともに堅調な予約状況となっていました。8月8日に発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」及び、8月に上陸・接近した4つの台風の影響によりキャンセルが多発し、売上高はKPIを下回る結果となりました。
- ◆ 今後の取組み
  - ・ 安全・安心で上質なサービスの提供を基本とし、行動様式の変容やお客様ニーズに対応しながら、増加傾向が顕著な訪日外国人客を確実に取り込み、引き続き宿泊部門を中心に売上確保に努めます。

2024年度KGI
77.5億円



### ⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高

ターミナル駅の持つポテンシャルを最大限に引き出し、まちの「顔」として人が集い、にぎわいあふれる拠点づくりに努めます。

2Q KPI	2Q 実績	達成率
1,280百万円	1,311百万円	102.4%

- ◆ 検証結果
  - ・ 特に8月は、お盆多客期に開業時並みの賑わいがあるなど、好調に推移しました。その結果、月末に台風影響による閉館があったものの、目標を大きく上回ることができました。
  - ・ 7月29日に「鮭酒肴杉玉」「コメダ珈琲店」、9月6日に「ロフト」が開業しました。話題性があり、マスコミにも取り上げられるなどにより集客力が向上し、売上の底上げに繋がりました。
  - ・ これらの結果、2Qのテナント売上高は1,311百万円となり、KPIを達成しました。
  - ・ また、2Qの入館者数は219万人と、1Qを上回るお客様にお越しいただきました。
- ◆ 今後の取組み
  - ・ 10月12日に洋菓子店「パスレル」が増床・改装し、11月15日には眼鏡を扱う「JINS」が開業します。これらも踏まえた売上増に努めるとともに、全テナントと面談を行い、各テナントの諸課題を把握し、効果的な販売促進策を検討・実施していきます。
  - ・ また、週末を中心に、屋上広場を活用したイベントを検討・実施し、集客促進に努めます。（音楽イベント等の鑑賞型のものだけでなく、飲食をお楽しみ頂ける等の参加型のものも含む）

2024年度KGI
5,276百万円



TAKAMATSU ORNE

## 2. (4) 2024年度第2四半期の実績等

### ⑨ 四国キヨスク（株）の売上高

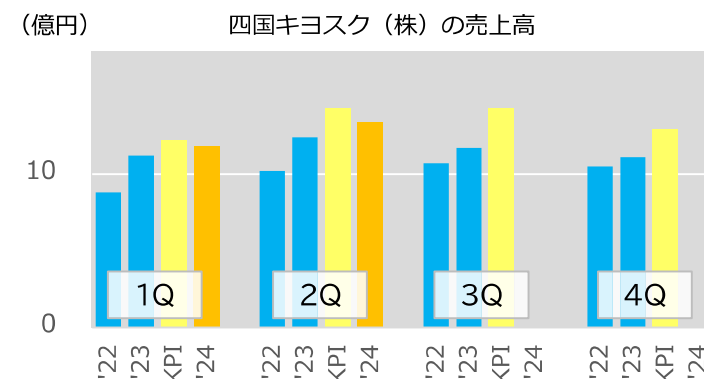
「お客様第一」の視点で高品質なサービスの提供に取り組みます。

2Q KPI	2Q 実績	達成率
14.3億円	13.4億円	96.5%

- ◆ 検証結果
  - ・コンビニ店舗は、7月5日に「高松銘品館」が「高松駅店」としてリニューアルオープンし、9月29日には松山駅高架下に「松山駅店」が移転オープンしました。共にアイテム数の増加や設備（スムージー、フライヤー等）の新規導入に取り組み、売上の拡大を図りました。
  - ・土産店舗は、高松オルネ内の店舗において特設コーナーを設け、販売促進を行いました。
  - ・しかしながら、既存店舗を中心に売上が伸びずKPIを下回りました。
- ◆ 今後の取組み
  - ・コンビニ店舗は、開店3ヶ月経過した「高松駅店」、9月にオープンした「松山駅店」において売れ行き傾向の変化を踏まえた商品アイテムの見直しを実施します。
  - ・土産店舗は、「GGG※」での試食販売等により新たな顧客の獲得に努めます。
  - ・コンビニ、土産店舗の既存店舗においては季節に合わせた販売促進の実施と新商品の導入等に取り組みます。
  - ・新規事業「TSUTAYA BOOK STORE」においては、キャラクター販売等、新たな話題商品のPOP UP販売に努めます。

※ Graceful Gift Shop by ハレノヒヤ（高松・松山）

2024年度KGI
53.9億円



### ⑩ コスト削減の取組み

デジタル基盤の活用や業務の見直し等、省力化・省人化による生産性の向上を図ります。

鉄道事業を中心に要員削減を進め、成長分野へのシフトを図ります。

2Q KPI	2Q 実績	達成状況
JR四国▲52百万円、 グループ会社▲5百万円	JR四国▲96百万円、 グループ会社▲12百万円	○

2024年度KGI
JR四国▲193百万円、グループ会社▲20百万円 要員削減に向けた取組みの推進

- ◆ 検証結果
  - (JR四国)
    - ・業務のデジタル化による旅費・会議費・印刷コスト等の削減や、安全に影響しない修繕費の見直し等、更なるコスト削減に取り組みました。
  - (グループ会社)
    - ・各社において、要員の見直しや広告宣伝費の削減等に取り組みました。
- ◆ 今後の取組み
  - ・これまでの施策を継続するとともに、車両部品の検査周期延伸の更なる拡大など新たな施策も検討し、引き続きコスト削減に努めます。

## 2024年度第2四半期KPI検証結果（総括表）

項目			KPI		実績	達成状況
鉄道運輸収入の安定的な確保	① 鉄道運輸収入の確保 KGI:鉄道運輸収入226億円	運輸収入 (定期)	1Q	12.4億円	12.6億円	101.6%
			2Q	<b>11.9億円</b>	<b>12.2億円</b>	<b>102.1%</b>
			3Q	11.6億円		
			4Q	10.7億円		
		運輸収入 (定期外)	1Q	43.0億円	43.0億円	100.0%
			2Q	<b>47.3億円</b>	<b>46.6億円</b>	<b>98.7%</b>
			3Q	45.7億円		
			4Q	43.5億円		
	② チケットアプリの定着・拡大 KGI:取扱収入割合（通期） 定期 14.5% 定期外 6.5%	取扱収入割合 (定期)	1Q	12.0%	14.2%	118.3%
			2Q	<b>13.0%</b>	<b>15.9%</b>	<b>122.3%</b>
			3Q	14.0%		
			4Q	20.0%		
		取扱収入割合 (定期外)	1Q	5.0%	5.0%	100.0%
			2Q	<b>6.0%</b>	<b>5.0%</b>	<b>83.3%</b>
			3Q	7.0%		
			4Q	8.0%		
③ 観光列車を活用した特別企画の実施、 情報発信による流動拡大 KGI:観光列車乗車人員56,500人		1Q	15,000人	15,214人	101.4%	
		2Q	<b>15,000人</b>	<b>14,264人</b>	<b>95.1%</b>	
		3Q	16,000人			
		4Q	10,500人			

## 2024年度第2四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI		実績	達成状況
鉄道 運輸 収入 の 安定 的 な 確 保	④ 利便性向上によるお客様満足の上 昇 KGI:車両リニューアル工 事の完了、 各種サービス・設備の 導入拡大	1Q	1200型車両リニューアル 工事完了（1両）	計画どおり実施済み	○
		2Q	<b>8000系車両リニューアル 工事完了（L編成1本）</b> 1200型車両リニューアル 工事完了（1両）	<b>計画どおり実施済み</b>	<b>○</b>
		3Q	サービス改善アンケートの 実施 8000系車両リニューアル 工事完了（S編成1本） 1200型車両リニューアル 工事完了（1両）		
		4Q	デジタルサイネージ導入 拡大（11駅） 1200型車両リニューアル 工事完了（1両）		
	⑤ 「四国家のお宝」の更 なる充実による 観光振興 KGI:33企画（参加人数 600人）	1Q	7企画（参加人数 80人）	7企画（82人）	○
		2Q	<b>3企画（参加人数 60人）</b>	<b>3企画（68人）</b>	<b>○</b>
		3Q	16企画（参加人数 300人）		
		4Q	7企画（参加人数 160人）		



## 2024年度第2四半期KPI検証結果（総括表）

項目		KPI		実績	達成状況
非 鉄 道 事 業 に お け る 最 大 限 の 収 益 拡 大	⑥ 連結売上高の確保 KGI:532億円（鉄道運輸収入226億円）	1Q	126億円（鉄道運輸収入 55億円）	124億円（ 55億円）	△
		2Q	累計 258億円（鉄道運輸収入114億円）	267億円（114億円）	○
		3Q	累計 392億円（鉄道運輸収入172億円）		
		4Q	累計 532億円（鉄道運輸収入226億円）		
	⑦（株）JR四国ホテルズの売上高 KGI:77.5億円	1Q	19.6億円	19.6億円	100.0%
		2Q	20.2億円	19.7億円	97.2%
		3Q	20.3億円		
		4Q	17.2億円		
	⑧ TAKAMATSU ORNEのテナント売上高 KGI:5,276百万円	1Q	1,254百万円	1,297百万円	103.4%
		2Q	1,280百万円	1,311百万円	102.4%
		3Q	1,379百万円		
		4Q	1,363百万円		
	⑨ 四国キヨスク（株）の売上高 KGI:53.9億円	1Q	12.2億円	11.8億円	96.5%
		2Q	14.3億円	13.4億円	96.5%
		3Q	14.3億円		
		4Q	12.9億円		
・ 生 産 性 向 上 其 他	⑩ コスト削減の取組み KGI:JR四国▲193百万円、グループ会社▲20百万円 要員削減に向けた取組みの推進	1Q	JR四国▲40百万円 グループ会社▲5百万円	JR四国▲75百万円 グループ会社▲13百万円	○
		2Q	JR四国▲52百万円 グループ会社▲5百万円	JR四国▲96百万円 グループ会社▲12百万円	○
		3Q	JR四国▲53百万円 グループ会社▲5百万円		
		4Q	JR四国▲48百万円 グループ会社▲5百万円		

## 【参考】国からの支援の決算への反映状況

2020年12月に国から発表された当社に対する支援は、2024年度第2四半期決算に以下の通り反映されています。今後も支援措置を有効に活用し、最大限の経営努力を積み重ねていくことで、財務基盤の安定化と収益基盤の強化を図ってまいります。

	進捗状況（2024年9月30日現在）
1. 経営安定基金の下支え （運用益の安定的な確保）	2024年度は、機構に対し200億円（利率5%）を貸付け、貸付総額は1,600億円となりました。当期は35億円の利息を受け取りました。 ○2024年度第2四半期決算への影響 ・損益計算書（営業外損益・基金運用益の内数）
2. 省力化・省人化に 資する支援	2021年度に機構から受け入れた出資金（560億円）を活用し、2024年度は50億円の省力化・省人化に資する施設等の整備を進めました。 これまでに活用した実績は、累計で 222億円となりました。
3. 利子補給	市中の金融機関から行う資金調達（高松駅ビル建設等に要する資金）に係る利子補給71百万円を受け入れました。 ○2024年度第2四半期決算への影響 ・損益計算書（営業外損益の内数）
4. 本四連絡橋負担の軽減	当社が支出していた更新費用の負担見直し(2021年度)により、本四利用料及び鉄道施設（鉄道単独部及び共用部鉄道専用施設）に係る更新工事費が軽減されています。

※2021年9月、2023年1月に感染症拡大の影響を踏まえた債務の圧縮・資本増強として、累計128億円のDES（債務を株式と交換）を実施しました。

# 【参考】経営改善に向けた2024年度上半期の取組実績

## 鉄道運輸収入の安定的な確保

### 松山駅高架化開業

- 9月29日、松山駅が高架化開業しました。
- 岡山・高松方面と宇和島方面の特急列車が対面乗り換え可能なホーム構造となりました。また、バリアフリー設備や商業エリアなどの拡充により、多くのお客様に、さらに便利で快適にご利用いただけるようになりました。
- 新しく設置した自動改札機では、チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」もご利用いただけます。



## 非鉄道事業における最大限の収益拡大

### 「JR松山駅だんだん通り」グランドオープン

- 松山駅の高架化開業と同時に、愛媛県初出店店舗・人気店が集まる商業エリア「JR松山駅だんだん通り」がグランドオープンし、初日からたくさんのお客様にお越しいただきました。
- 季節やイベントに合わせたキャンペーンなどを展開していきます。



### 賃貸レジデンス事業拡大

- 収益用不動産を取得し、賃貸レジデンス事業の拡大を進めています。
- 東京都目黒区において首都圏初となる収益用不動産を取得し、「J.リヴェール学芸大学」として運営を開始しました。

### 分譲マンション事業首都圏進出

- 分譲マンション事業としては初の首都圏進出となる、茨城県つくば市において「ル・サンクつくば並木」マンションを建設中です。
- 6月から販売を開始しており、第1期販売分は即日完売となりました。マンションギャラリーを開設し、第2期販売分を好評分譲中です。

## 地域等関係者と連携した取組み

### 特急列車内からのタクシー手配サービス実証実験

- ドライバー不足などを背景に、地方都市においては中心市街地の駅前であっても、タクシーが1台も待機していない状態が珍しくなくなりつつあります。また、タクシー配車アプリの導入が進んでいないエリアも多くあります。
- このような中、当社では株式会社電脳交通とともに、地元タクシー会社のご協力を得て、6月から移動の利便性向上に向けた実証実験を行っています。
- 実証実験では、予讃線の特急列車内(8600系・8000系電車)に掲示した二次元コードからタクシーを配車することができ、下車駅からスムーズに乗り継ぐことができます。



### サーモン陸上養殖事業に参入

- 従来の枠にとらわれない柔軟な考え方により、新規事業の1つとしてサーモンの陸上養殖事業に参入しました。
- 四国内での本格的な展開に向けたトライアルとして、協業企業のある熊本県八代市に陸上養殖システムを設置し、飼育・出荷・販売のノウハウ取得を進めています。

### モーダルミックス推進事業

- 東かがわ市・大川バスと合同で、学生の通学の利便性を向上させるモーダルミックス推進事業を開始しました。
- JRの通学定期券により並行する路線バスにも乗車でき、通学時の選択肢が増えることで、ご家族の送迎負担軽減や公共交通の利用促進効果が期待されています。

# 【参考】通期業績予想

2024年度の通期業績予想につきましては、5月8日発表内容（事業計画数値）から変更しません。

## ○連結業績予想（JR四国グループ）

（単位：億円）

	2024年度 事業計画	2024年度 今回予想	増減
営業収益	532	532	-
営業利益	▲ 158	▲ 158	-
経常利益	0	0	-
親会社株主 当期純利益	0	0	-

## ○単体業績予想（JR四国）

（単位：億円）

	2024年度 事業計画	2024年度 今回予想	増減
営業収益	294	294	-
営業利益	▲ 170	▲ 170	-
経常利益	▲ 8	▲ 8	-
当期純利益	▲ 8	▲ 8	-

## 2024年度第2四半期連結貸借対照表等

## ○連結貸借対照表

(単位：億円)

	2023年度 期末	2024年度 第2四半期末	増減	主な増減事由等
流動資産	769	679	▲ 89	現預金 (▲17.4億)、未収金 (▲65.2億)、有価証券 (▲10.0億)
固定資産	1,505	1,592	87	投資有価証券 (53.3億)、事業用固定資産 (34.5億)
経営安定基金資産	2,271	2,242	▲ 29	有価証券評価額 (▲29.2億)
機構特別債券	1,400	1,400	—	
資産合計	5,946	5,914	▲ 31	
流動負債	398	351	▲ 47	未払金 (▲23.0億)、買掛金 (▲15.7億)、短期借入金 (▲9.8億)
固定負債	531	544	12	長期借入金 (21.5億)、繰延税金負債 (▲8.7億)
機構特別債券の引受けのための借入金	1,400	1,400	—	
負債合計	2,330	2,295	▲ 34	
純資産合計	3,615	3,618	2	四半期純利益 (23.7億)、有価証券評価差額 (▲20.1億) 退職給付に係る調整累計額 (▲0.7億)
負債・純資産合計	5,946	5,914	▲ 31	

## ○連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2023年度	2024年度	増減	主な増減事由等
営業活動によるキャッシュ・フロー	44	82	37	当期損益の増 (3.4億)、未収金の回収による増 (50.4億) 未払金の支払による減 (▲20.2億)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 27	▲ 121	▲ 93	工事負担金の受入の減 (▲31.7億)、固定資産取得による減 (▲19.7億)
[フリー・キャッシュ・フロー]	16	▲ 39	▲ 56	
財務活動によるキャッシュ・フロー	21	11	▲ 10	短期借入金による資金の減 (▲22.6億)、長期借入による資金 の増 (13.7億)
現金及び現金同等物の増減額	38	▲ 27	▲ 66	
現金及び現金同等物の期首残高	604	576	▲ 28	
現金及び現金同等物の期末残高	642	548	▲ 94	

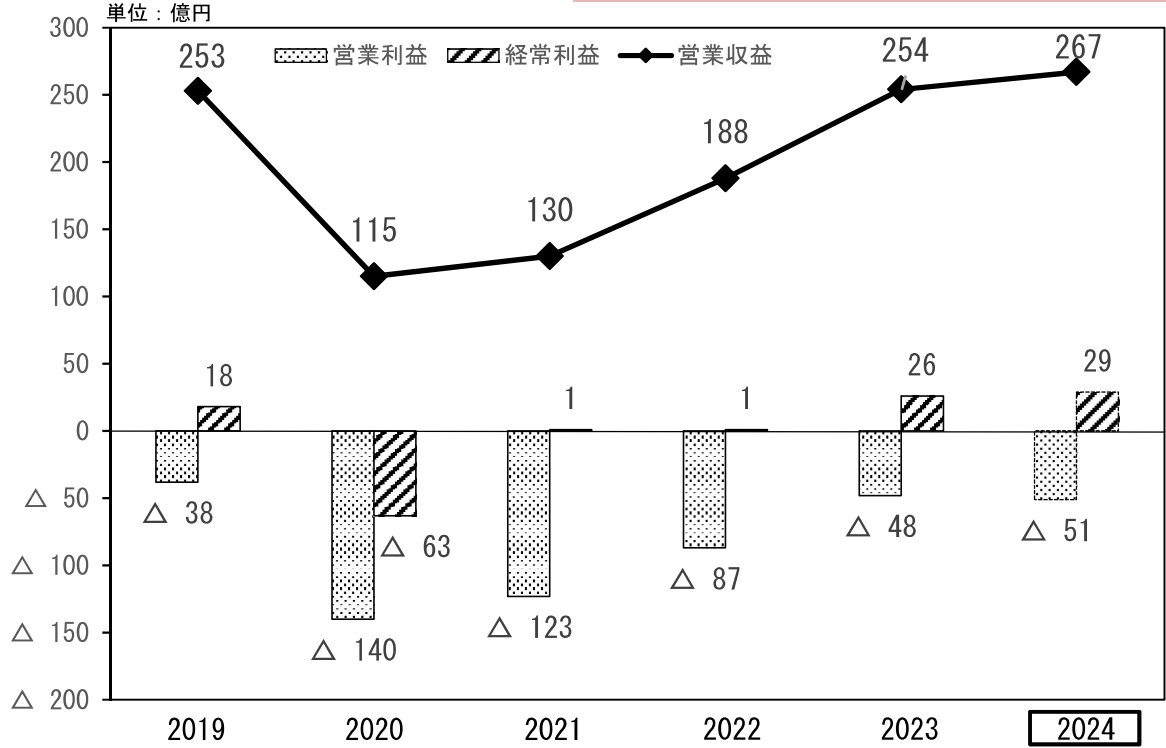
## ○単体貸借対照表

(単位：億円)

	2023年度 期末	2024年度 第2四半期末	増減	主な増減事由等
流動資産	726	624	▲ 102	現預金 (▲15.4億)、未収金 (▲73.5億)、有価証券 (▲10.0億)
固定資産	1,493	1,570	76	投資有価証券 (53.3億)、関連事業固定資産 (18.6億)
経営安定基金資産	2,271	2,242	▲ 29	有価証券評価額 (▲29.2億)
機構特別債券	1,400	1,400	—	
資産合計	5,891	5,837	▲ 54	
流動負債	490	418	▲ 72	未払金 (▲52.7億)、短期借入金 (▲17.0億)
固定負債	523	535	12	長期借入金 (21.6億)、繰延税金負債 (▲8.9億)
機構特別債券の引受けのための借入金	1,400	1,400	—	
負債合計	2,414	2,354	▲ 59	
純資産合計	3,477	3,483	5	四半期純利益 (25.5億)、有価証券評価差額 (▲20.1億)
負債・純資産合計	5,891	5,837	▲ 54	

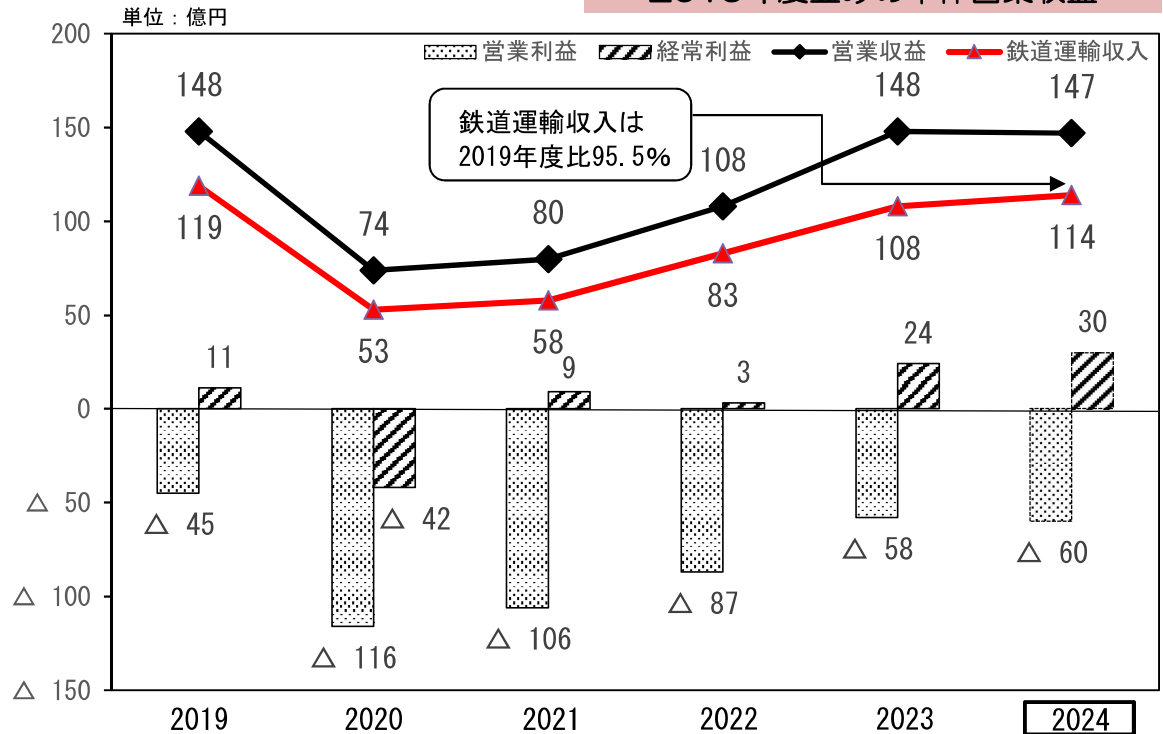
## 連結決算（第2四半期累計）の推移

2019年度を超える連結営業収益



## 単体決算（第2四半期累計）の推移

2019年度並みの単体営業収益



## 鉄道輸送量及び鉄道運輸収入の対前年比較

(単位:千人、百万人キロ、百万円、単位未満切捨)

		2023年度 第2四半期 A	2024年度 第2四半期 B	増減額 B-A	前期比 B/A	2019年度 第2四半期 C	2019年度比 B/C	
鉄道輸送量	輸送人員	定期外	7,033	7,242	208	103.0	8,914	81.2
		定期	13,680	13,360	△ 320	97.7	15,494	86.2
		通勤	5,305	5,210	△ 95	98.2	5,799	89.8
		通学	8,375	8,149	△ 225	97.3	9,695	84.1
		(千人) 計	20,714	20,602	△ 112	99.5	24,409	84.4
	輸送人キロ	定期外	337	347	10	103.1	431	80.6
		定期	284	277	△ 7	97.3	321	86.3
		通勤	123	119	△ 4	96.6	134	88.9
		通学	161	157	△ 3	97.9	186	84.5
		(百万人キロ) 計	622	625	2	100.5	752	83.1
鉄道運輸収入	定期外	8,705	8,968	263	103.0	9,707	92.4	
	定期	2,192	2,487	295	113.5	2,289	108.6	
	通勤	1,269	1,457	188	114.8	1,279	113.9	
	通学	923	1,030	107	111.6	1,010	102.0	
	(百万円) 合計	10,898	11,456	558	105.1	11,998	95.5	

## 鉄道運輸収入(第2四半期)の推移

(単位:百万円)

年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
鉄道運輸収入	18,066	17,434	16,463	15,547	15,227	14,613	13,979	13,440

年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
鉄道運輸収入	13,220	13,145	13,169	13,076	11,756	11,639	11,379	11,560

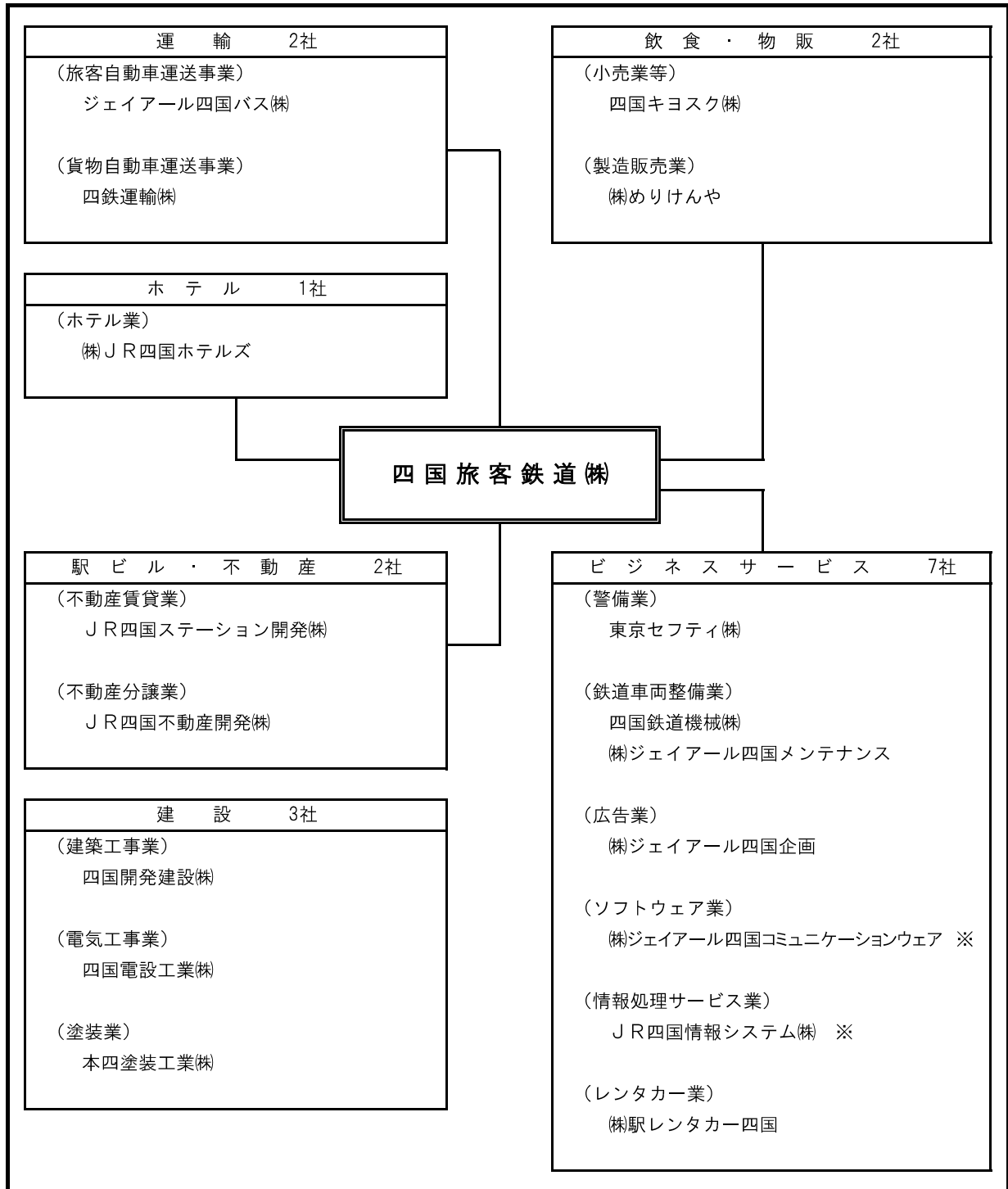
年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
鉄道運輸収入	11,545	11,350	11,845	11,971	12,140	11,009	11,998	5,328

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
鉄道運輸収入	5,867	8,378	10,898	11,456





## 連結対象会社一覧表



### 連結決算対象会社数

親会社	1社
子会社	17社
計	18社

(注) 四国旅客鉄道(株)は、運輸、飲食・物販、ホテル、駅ビル・不動産、ビジネスサービスを営んでおります。

※ (株)ジェイアール四国コミュニケーションウェアは、2024年10月1日にJR四国情報システム(株)を吸収合併し、JR四国ソリューション(株)に商号変更しました。